Joy風
Faculty of Informatics
Shizuoka University Newsletter
Vol.15, October 2015
http://www.inf.shizuoka.ac.jp
October2015
vol. 15
静岡大学情報学部

行事報告

Report of events

平成 27 年度入学式・保護者懇談会

情報学部学生委員会　高岡 智子

平成 27 年度の入学式は、2015 年 4 月 4 日（土）に静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）にて行われ、情報学部ではさまざまな地域から新入生を迎えました。式後には、新入生の保護者の皆様を対象とした「情報学部保護者との懇談会」を開催しました。当日は落ち着いた天気となり、大変多くの保護者の皆様にご参加をいただきました。懇談会では、シェフタル学生委員長の司会進行により、学部長はじめ、情報科学学科長、情報社会学科長、教務委員長、学生委員長、キャリア支援室長、国際交流委員から、情報学部の現状、教育、就職、学生生活等の説明をいたしました。また、本学部の同窓会組織である浜松工業会会長からもご挨拶をいただきました。懇談会の最後には、皆様からのご質問にできる限りお答えさせていただきました。

今回は、浜松市をはじめ、静岡県内、愛知・岐阜・三重の３県から多くの参加をいただいたほか、近隣の山梨をはじめとした中部地方、近畿、関東、中国・四国、九州、東北などの遠方からもお越しいただきました。

155 名の保護者の方からアンケートを回収させていただきました。ご意見をいただき大変ありがとうございました。今後の学部運営の貴重な資料とさせていただきます。

新入生歓迎合宿 in 伊良湖

情報学部学生委員会　高岡 智子

2015 年 4 月 18 日（土）から 19 日（日）の午前にかけて、愛知県渥美半島の先端に位置する休暇村伊良湖で、情報学部の新入生歓迎合宿を開催いたしました。毎年恒例となっている情報学部の新入生歓迎合宿では、例年、企画から運営までの多くを、情報学部在学生であり新入生の先輩でもある 2 年生と 3 年生の有志ボランティア学生が中心となって進めてくれています。今年は厳選された先輩スタッフが、1 年生の時に受けた感激・充実感を後輩に引き継ごうという意気込みで様々な企画を立てて運営を進め、その様子を、学生委員会を中心とした教員が運営の責任者として見守りました。こうした上級生たちの活動は、リーダーシップを取ることの難しさや楽しさなど、彼らが今後社会に出てから役立つ貴重な体験にもなります。このような上級生たちの活躍によって、まだ入学したばかりで緊張している新入生のみなさんが、少しずつ緊張の糸をほどいて周囲と仲良くなっていく様子を見る事ができ、大変意義のある合宿になったと思いま す。

今回は天候も心地よく、屋外でのバーベキュー、リクレーション、スポーツ、そして夜のナイトウォークや懇親会などを楽しむことができました。新入生同士・そして先輩後輩だけでなく、新任教員との交流により、これからの大学生活の糧となる親睦を深めることができたと思います。

バスの前での集合写真（2015/4/19）

夏季オープンキャンパス

情報学部広報委員会　中澤 高師

8月7日、夏季オープンキャンパスが開催されました。午前・午後を合わせて約 640 名の来場者に、情報学部での学習・研究や大学生活の雰囲気を体験していただきました。

今回のオープンキャンパスでは、平成 28 年度からスタートする 3 学科体制の「新」情報学部が紹介されました。全体説明会では、各学科の概要とキャンパスライフの紹介、入試に関する説明、そして就職などの進路先や支援体制について説明がされ、来場者は真剣な表情で耳を傾けていました。ミニ講義では、情報科学科、行動情報学科、情報社会学科の各学科を代表して３人の教員が登壇し、情報科学や人工知能の最前線から著作権問題まで、参加者に情報学部での講義を実際に体験してもらいました。研究室等展示でも多彩な研究が紹介され、文と工が融合した情報学の世界を垣間見ていただけたのではないかと思います。個別相談では、入試をはじめ大学での授業や生活、就職などについての質問・相談に、教職員と在学生が応じました。

ミニ講義の様子（2015/8/7）

情報学部は今年創設 20 周年を迎え、来年度からは 3 学科体制のもと新たなスタートをきります。ご来場の皆さまとキャンパスで再会し、これからの情報学部を一緒に創りあげていくことを楽しみにしています。

コンピュータシステム演習
Computer System Practicum

情報科学科 CS 2 年　高木 優衣

コンピュータシステム演習では情報学部で学んでいくための基本的な知識を身につけることができます。講義の内容は、基本的なシステム設定と操作の方法、ファイルの管理、タッチタイプ技能の習得、文書作成や電子メール等のアプリケーションの利用方法など、コンピュータの基本的な事項が中心です。自分のコンピュータを操作しながら講義は進んでいきますが、スピードが速いので内容が理解できていないとついていくことができず、大変でした。しかし、分からない事があればティーチング・アシスタントの先輩方がフォローしてくださるので安心して講義を受けることができます。

この講義ではグループワークも行います。HTML を使って Web サイトを作成します。グループで 1 つのサイトを作成し、個人で 1 ページずつ担当します。グループで企画し、お互いにアドバイスをしあいながら完成させていく作業はとても楽しかったです。グループのメンバーの家に全員が集まり作業するなどしてグループの仲も良くなりました。

私はコンピュータの操作に関する疑問があるときにこの講義の資料を見直します。この講義で学んだことは後々に確実に役に立つと思います。

機械語と計算機械
Machine Language and Computing

情報科学科 CS 4 年　安藤 純平

コンピュータに仕事をさせるため、人は様々な言語を用いてプログラムを記述しますが、それらは最終的にはすべて２進数のプログラム（機械語）に変換されます。「機械語と計算機械」では、機械語を、計算機械（コンピュータ）がどのように解釈・実行するかなどを学びます。

この講義は演習形式で行われ、実際にボード型コンピュータを動かしコンピュータの振る舞いを細かく調査したり、調査した通りに振る舞うシミュレータを Java というプログラミング用の言語で開発したりします。周りの人とコミュニケーションを取りながら、みんなで協力して課題に取り組みます。そのため、分からないところがあっても友達に聞いたり相談しあったりできますし、教員もしっかりサポートしてくれます。

この講義の面白い点は、それまでブラックボックスだったコンピュータの構成や振る舞いを信号レベルで理解できることです。私たちは普段からコンピュータに触れることは多いですが、なぜ計算ができるのか、なぜキーボードを叩くと文字を入力でき、なぜ画面に表示されるのかなど、分からないことだらけだと思います。私もそうでした。しかし、この講義を受講したことで、そのような不思議を解決することができました。

アルゴリズムとデータ構造 I
Algorithms and Data Structure I

情報社会学科 IS 2 年　磯部 翔一

IS プログラムの必修科目「アルゴリズムとデータ構造 I -IS」は同じく必修科目の「データ処理プログラミング」と連動し、アルゴリズムやオブジェクト指向といった、プログラミングにおける基本的な概念を学びます。講義は Java 言語を用いて展開され、毎回課される課題をこなしていくことで、実践的なスキルを身につけることができます。課題には実用的なアプリケーションや、シューティングゲームのプログラムも登場するため、楽しみながら理解を深めることができます。また、ティーチング・アシスタントの先輩方が丁寧に指導してくださるので、大学入学後にプログラミングを学び始めた私でも、戸惑うことなく学習を進められました。

授業の最後ではグループに分かれて作品を制作し、プログラミング発表会が行われます。私のグループは、Twitter 上のつぶやきを分析するアプリケーションの開発に挑戦しました。大量のつぶやきを分析して、あるキーワードに関連して人々がどのような事象に関心を持っているのかを調べるというものです。結果をより分かりやすく、グラフィカルに表示するという点にもこだわりました。

授業を通じて、プログラミングを学ぶことができただけでなく、近年注目される「ビッグデータ」の活用についても興味を持つことができました。また、友人達と明け方まで大学に残って作業したり、プログラムが完成した時の喜びを味わうことができたのも良い経験になりました。

フィールドリサーチ
Field Research Methods

情報社会学科 ID 3 年　天野 友貴

３年前期の「フィールドリサーチ」は、社会調査の方法を学ぶ演習の授業で、実際に現場（フィールド）に入り社会調査（リサーチ）を行います。授業では、調査の方法やマナーとともに、アポイントのとり方やインタビューの方法も学びます。

今年は、浜松市の自動車部品を製造している中小企業の海外進出について調査を行い、私は２社に訪問・インタビューをしました。調査のアポイントをとりつけるために企業の方々とメールや電話でやりとりをしたり、社会人の方にインタビューをお願いするなど、普段の講義や学校生活では経験できないことをフィールドリサーチの授業を通して学びました。

調査を行い、浜松の産業やその課題を知り、社会や産業についてより深く考えることができるようになりました。また、情報学部生として社会調査の手法を用い情報を収集するために必要な技術を学びながら、社会人の方とメールや電話でやりとりをしたり、お話を伺う経験ができ、来年から始まる就職活動に向けてもとても勉強になる演習でした。

情報化の光を伸長し、影を縮小させるために

情報社会学科 准教授　遊橋 裕泰

大手通信企業に 19 年間勤務し、2015 年 4 月に静岡大学へ参りました。前職では、愛知万博でのおサイフケータイ実証実験や携帯電話へのフィルタリング導入、東北復興などに携わってきました。

情報通信技術（ICT）は、人々をエンパワーする一方で、それが悪用されると社会全体に被害をもたらす可能性があります。今後、現実世界「Real World」と情報空間「Cyber Space」の融合がさらに進むにつれ、この傾向はますます顕著になるでしょう。

そのようなトレンドを受け、静岡大学では「社会の情報化に伴うプラス／マイナスの影響はいかにしてマネジメントできるか？」をテーマに、ICT を活用した行動マネジメントの研究、および先進的な ICT サービスの社会実装支援に取り組んでいく所存です。

教育に関しては、ICT の社会実装に直結した授業・演習を担当します。学生たちの技術スキルを伸ばすだけではなく、ICT 化の悪影響に配慮する社会的な視点を養いたいと考えています。また就職指導についても、過去に新卒・中途採用の面接官を担った経験を活かして積極的に支援をおこなっていきます。どうぞよろしくお願いいたします。
（研究室ウェブページ：http://www.yuhashi-lab.net/）

人間の知覚・行動を織り成す脳の仕組みを探る

情報科学科 教授　宮崎 真

４月に着任した宮崎真です。専門分野を訊かれるといつも迷うのですが、最近は認知・脳科学と答えています。心理学的測定法と脳機能測定法を用いて、人間の知覚・行動を織り成す脳の情報処理の仕組みを探っています。

情報科学科の教員の中で私は異色の出自で、スポーツ科学科の出身です。とはいうものの、元来、体育は苦手な運動音痴。それが、中学生のときに剣道部に入ると、剣道だけは人並みにできて、新人戦にも出場できました。その初戦、対戦相手の打突が迫って頭が真っ白になったあと、知らぬ間に日頃練習していた返し技で相手から一本を取っていました。それに驚き、「自分のなかに自分の預かり知らない自分がいる」という思いに駆られ、人間の心の謎を探るならばスポーツ科学だと思い込み、今に至っています。

そんな初心も忘れて、論文を出すための研究に追われている自分に気付く今日この頃ですが、情報学部の学生さん達と接し始めて、若い頃の新鮮な探究心が思い出されてきました。ここで心新たに学生さん達と一緒に、脳の本質に迫るような面白い研究を目指したいと思います。
(研究室ウェブページ：
http://lab.inf.shizuoka.ac.jp/miyazaki-makoto)

統計科学による新たな知識発見を目指して

情報社会学科 准教授　荒木 由布子

みなさまこんにちは、この４月から着任しました荒木由布子と申します。出身は静岡市で、毎年春になると駿府城公園のお堀の桜に心を弾ませて通学していた事が思い出されます。

私の専門は統計科学で、様々な現象の構造解明の主たる情報源でありしかもばらつきを持つデータから、数学という科学の共通言語と計算機科学を用いてこの不確実性を捉え、有用な情報を抽出し問題解決に役立てることを目指します。

特に近年の急速な測定技術の進歩に伴い複雑多様化した各個体の特徴量が膨大な“高次元データ”とよばれるもの、例えば、アルツハイマー病の早期発見のために測定された３次元構造的磁気共鳴データや医療機器の改良のための研究で測定された人間歩行の実時間記録データ、健康長寿社会を目指した政策の科学的基盤作りのために観測された、各個人の数百の調査項目が１０年間以上追跡調査された全国大規模データなどから、情報量の損失を最小限に抑えつつ有益な情報を精確に抽出するための理論的・応用的研究を行っています。

これから静岡大学の学生たちと一丸となって学び、新たな知識発見を目指して研究に励みたいと思います。また、日本に限らず世界中で不足していると言われている統計リテラシーを持った人材育成にも力を注いでいきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

究極のセンサーを目指して

情報科学科 助教　増澤 智昭

３月に着任しました増澤智昭です。これまでは、特殊な環境で活躍するカメラのための基礎研究を行っていました。月明かりほどの弱い光でも撮影ができる高感度カメラや、放射線や高温など過酷な環境でも使えるカメラの開発を目指し、真空管から半導体材料の作成／評価まで、色々な分野にタッチしてきました。

静岡大学では、これまでの研究を発展・継続すると同時に、人の知覚に根ざした画像データの取得・表示についても取り組みたいと考えています。人間の視覚は、眼球と視神経回路、脳での画像処理が組み合わさることで優れたセンサーとして機能しますが、一方で錯覚など独特のくせがあります。視覚の特性を理解することで、より人の感覚に近い画像の取得・表示ができるのではないかと考えています。

情報学部の教員として、人間の知覚行動と情報通信技術の特徴をよく把握し、情報化社会とどのように向き合って行くかを学生のみなさんとともに学びあっていきたいと思います。情報技術に関する知識・理解はもちろん、セキュリティと利便性のトレードオフや、リスク管理の考え方、さらには情報化すべきこと、すべきでないことについて学生のみなさんが気づきを得るお手伝いができればと思います。

平成27年度　キャリア支援室の取組み

Student career support

情報学部キャリア支援室　溪村 和明

キャリア支援室は、学生に対する早期キャリア意識形成から進路指導・決定までのトータルケアを通じて、学生たちの効果的な就職活動展開のための支援を行うことを目的としています。キャリア支援アドバイザを含めた室員9名体制で、キャリア意識啓発のためのガイダンス、企業・官公庁へのインターンシップ、キャリア支援説明会や合同企業説明会の開催、OB会組織との連携による情報交換などの支援を実施しています。

周知のとおり、2016年度春採用の学生による就職活動時期が3ヶ月、企業側の採用選考時期が4ヶ月、それぞれ「後ろ倒し」となりましたので、例年行われていた就職内定率の中間報告は次の機会に譲りたいと思います。今後も就活や採用選考時期が経済その他の要因により変更される可能性がありますが、このような状況下で見通しとして言えることは、企業はIT、金融、科学などの高い専門性を具体的な形に現すことのできる人材を求めてくるということです。それを可能にするのが能動的な力、すなわち「自ら考える力」です。

学生はこの力をインターンシップで試すことが出来ます。2015年度は学部3年生、大学院1年生の計35名の学生が実務実習を選択し、サンロフト、システムサーバー、TOKAIホールディングス、東芝テック、K-MIX、朝日新聞社、浜松市役所、磐田市役所、静岡県庁など、民間企業や公共団体に於いて、主に夏休み期間中に1～2週間の研修に就きます。このインターンシップについては実習の前後に企業研究成果・実習内容等の発表を行い、実習期間に応じて1～2単位が付与されます。キャリア支援室ではガイダンスで多くの学生にインターンシップに参加するよう指導しています。

今年度4月には大学院1年生を対象に、2年間の修士課程での過ごし方、研究や自己形成の心構え、仲間との共同研究の方向性などについて考える機会を作ることを目的に、大学院新入生研修会を実施しました。今回は静岡大学情報学部情報科学科、情報学研究科、創造科学技術大学院を卒業された若手起業家、株式会社ANSeeNの代表取締役・小池昭史氏をお迎えして、講演を行っていただきました。演題は「修士(マスター)の意味」でした。学生には大学院での過ごし方に関わる問題提起、議論を経て、討議結果を各グループでまとめ、報告してもらいました。このような研修を通して、大学院での学び（経験）と、その後のキャリアがどのように結びついていくのかを院生に考えてもらい、キャリア形成の一助となったことと思います。保護者の皆様に年度末には良い報告が出来るようにキャリア支援室員一丸となってキャリア支援に努めてまいります。

平成 27 年度インターンシップ事前発表会（2015/7/23）

3 学科制への移行について

平成 28 年度より、これまでの 2 学科 3 プログラム制から 3 学科制に移行することになりました。情報学部は、平成 7 年に情報科学科と情報社会学科の 2 学科体制でスタートしました。平成 16 年度からは CS（計算機科学）、IS（情報システム）、ID（情報社会デザイン）の 3 プログラム制を導入し、「文工融合」の情報学を発展させてきました。

この 20 年の実績を礎として、さらなる飛躍のために、第 3 の学科として行動情報学科が創設されます。情報科学科、行動情報学科、情報社会学科は、それぞれ計算機科学、情報サービス設計、情報社会デザインという中心テーマを持ちながら、互いに連携し、高度情報社会をリードする多様な人材を育成していきます。

※平成 27 年度入学の学生までは、これまで通り 2 学科 3 プログラム制のカリキュラムになります。

※3 学科制の詳細については、情報学部のウェブページをご覧ください。

学位記授与式・卒業祝賀会のご案内

学位記授与式はアクトシティ浜松（大ホール）、卒業祝賀会はホテルクラウンパレス浜松にて開催されます。

学位記授与式におきましては、ご臨席の保護者様が多数の場合には十分な席数を確保することが困難であることを予めご承知おきください。

また、卒業祝賀会は卒業生・修了生および教職員のみの参加となっておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成 27(2015)年度　行事予定表

2015年		2016年	
10月1日	後期授業開始	1月4日	授業再開
11月7･8日	静大祭･テクノフェスタ(浜松)	2月4日	後期試験期間(～2月10日)
11月7日	保護者懇談会･個別面談	3月21日	学位授与式(静岡)
11月14･15日	静大祭(静岡)	3月24日	学位授与式(浜松)
12月中旬	シドニー大学短期集中コース(～1月上旬)	3月25日	春季休業(～3月31日)
12月22日	集中講義(～12月25日)		
12月26日	冬季休業(～1月3日)		

Joy風 vol.15 October2015

お問い合わせ　〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1 静岡大学情報学部事務局
TEL：053-478-1510　FAX：053-471-0249
学務窓口 pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp　広報窓口 prcom@ml.inf.shizuoka.ac.jp

情報学部のウェブページをご覧ください。

情報学部のウェブページは全面リニューアルされました。最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。

http://www.inf.shizuoka.ac.jp/